

事務事業名	社会参加促進事業					事務事業No.	363 - 4						
1. 基本情報													
担当部	担当課		担当係		作成者職名	作成者氏名		所属長職名	所属長氏名				
福祉部	社会・障がい者福祉課		障がい者福祉係		主任	中島 大貴		課長	森山 仁志				
施策体系	総合計画	政 策	3	健幸・子育て									
		施 策	6	障がい者福祉の充実									
		基本事業	3	障がい者の自立と社会参加促進に係る支援の強化									
	その他の計画		個別計画		第4期飯塚市障がい者計画								
根拠法令・条例・要綱等	なし												
事業開始年度	把握していない		事業終了年度		継続		事務事業類型		ソフト事業				
実施手法	全部直営		補助金等の支給		なし		実施計画期間		なし				
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）													
概要	障がい者、障がい児の社会参加の促進とノーマライゼーションの推進を目的に、療育キャンプ事業とふれあいのある街づくり推進事業（福祉のつどい）を実施する。												
対象	働きかける相手・もの	障がい者、障がい児											
手段	方法・働きかけ（活動指標）	委託により、①療育キャンプ事業、②ふれあいのある街づくり推進事業（福祉のつどい）を実施する。											
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	市民の相互理解と交流を目的とし、障がい者に社会参加の機会をもってもらう。											
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）													
指標名		単位	指標の説明（算式等）		前年度実績	本年度実績		次年度見込					
事業数		事業	実施した事業		2	2		2					
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）													
指標	療育キャンプ参加者	単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		人	30		目標値	30	30	30					
説明	参加した障がい者・障がい児数	方向性	達成目標年度		実 績	24	44						
		維持	毎年度										
指標	福祉のつどい参加団体	単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		団体	60		目標値	60	60	60					
説明	参加した障がい者等団体等数	方向性	達成目標年度		実 績	57	58						
		維持	毎年度										
指標		単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
					目標値								
説明		方向性	達成目標年度		実 績								
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）													
経費区分	一般会計	経常経費				特別会計	－						
予算科目・事業	会計	1	一般会計		款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	障がい者福祉費
	大	2	障がい者福祉事業費		中	2	社会参加促進事業費		他 0 事業				
投入人員 （当該事務事業に対して1年間に投入した人員）	(R2以降)		前年度実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)			次年度予算(千円)			
	正職員		0.10	人	795	0.20	人	1,629	投入人数増による。	0.20	人	1,629	
	任期付職員(保育士)		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0	
	任期付職員(子ども家庭支援員)		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0	
	任期付職員(CW・水質)		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0	
	再任用フル		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0	
	再任用短		0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0	
	会計年度	1級フル	0.05	人	147	0.00	人	0		0.00	人	0	
		1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0	
2級パート		0.00	人	0	0.00	人	0	0.00		人	0		
人件費計(A)		942		1,629					1,629				
事業費	直接事業費(B)		3,443		3,693					3,744			
	総事業費(A+B)		4,385		5,322					5,373			
直接事業費のうち の主な歳出内訳		委託料		3,443		3,481					3,744		
		報償費		0		0					0		
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)		0		0					0			
	国・県支出金		303		436					337			
	市債		0		0					0			
	一般財源		4,082		4,886					5,036			
	その他()												

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	高い	障がい者の社会参加を促進するのは、市の責務であるので、市が関与することは妥当である。
効率性 評価	高い	「療育キャンプ」については主に知的障がい者の社会参加促進を図ることができたが、予算化については関係団体と調整し、事業廃止の検討が必要である。一方で、「福祉のつどい」については、健康21世紀福岡県大会及び健幸展と共同開催することにより、コストをかけることで来場者数が増加し、多くの参加団体で満足度が増加した。
有効性 評価	高い	障がい当事者団体や支援団体が主体となって実行委員会を結成しているため、社会参加のきっかけとなった。

7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	会場や駐車場のキャパシティを考慮し、福祉のつどいへの参加を希望する新規団体については、受け入れが困難であったが、開催場所を検討することで、希望する参加団体も参加できるようになる。
一次評価	現状維持		
	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	令和5年度に参加団体の増加や運営方法の一部変更に伴い、補正予算で委託料を増加した。「福祉のつどい」と「健幸展」に対する関心が高まりつつあるので、コストを維持する必要がある。
現状維持			
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入			
福祉のつどいの開催会場を飯塚市総合体育館へ変更したことで、会場や駐車場のキャパシティを確保することができた。希望する参加団体が参加できる体制となったため、今後も飯塚市総合体育館での開催を目指す。			

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★	
〔成果〕	療育キャンプの広報について、引き続き市報掲載等を行うが、事業委託先での広報強化を関係者会議等で依頼する。
〔課題〕	「福祉のつどい」と「健幸展」に対する関心が高まりつつあるので、コストを維持する必要がある。

9.今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	〔特になし。理由〕
現状維持	〔理由〕
コスト投入の方向性	〔療育キャンプについては、同時期に社会福祉協議会が実施する障がい者バスハイク事業と事業内容が被ることから事業廃止を検討し、関係団体等と協議を行う。理由〕
縮小	〔理由〕
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	なし。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	なし。

評価変更理由	成果の方向性	類似の補助事業と統廃合して直接事業から補助事業へ移行する。 統廃合によりコストを縮小する。
	統合	
	コスト投入の方向性	
	縮小	